

諸橋轍次記念 漢字文化理解力検定

出題例題

二〇一八年六月

※解答は楷書で記すこと。なお、字体や仮名遣いが一般的なものと大きく異なる場合には、減点の対象とすることがある。

## 【問題Ⅰ】

次に掲げるのは、諸橋博士の『莊子物語』の一節である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。(問題作成にあたって、一部、文章を改めたところがある。)

老莊思想の盛んであった晋の太元年間の話であります。武陵(注：地名)の漁夫が、あるとき谷川に沿うてさかのぼって行きますと、うつくしい桃の林がありました。芳華鮮美、落英①繽紛。そこで漁夫が怪しみながら、その林の中に進んで行くと、その先に水源の山がある。山に入る小口の穴がある。不思議と思いつながら細道を①タドって行くと、その先は②豁然と天地が開けて来て、そこには良田美池があり、鶏犬の声も③聞こえて来た。ことに不思議なことは、そこにいる男女がみな世間の人とは異なった衣裳をつけて、しかも怡然として自ら(A)いることであります。そして漁夫の来たのを喜んで、②酒肴を設け鶏を④殺して③ゴチソウしてくれる。その中にはかの村人もやって来ますが、それがまた、それぞれに漁夫を④饗応してくれる。

そこで漁夫がその人々に、あなた方はいったいどういうお方なんでしょうとたずねますが、村人の答えによりますと、その地の人々は、すべて⑤秦の時代の乱を避けてこの地にのがれたのだ、⑥爾来外人との交通もないから、世の中のこととは一切知らぬのであります。事実、秦のつぎの(B)の時代のことでも知りません。いわんや魏・晋の時代のことなどは、一切知らぬのであります。狐にばかされたような気持ちで、しかも⑥ユカイな気持ちで、漁夫は数日⑦トウリュウの後、その郷を①辞しました。故郷に帰ってから、そのことを土地の大名に話しますと、大名も驚いて、その地を再調査させましたが、どうしたことか、その入り口が見出されず、遂に⑧トウゲンの真境はわからなかったというのであります。

この標渺夢裡の話は、⑧陶淵明の名文「桃花源記」の中に記されています。全く（C）の小国寡民の理想郷を美化し詩化したものらしいのであります。その文に附した陶淵明の詩の中につぎの句があります。

草榮えて節の和を識り。 木衰えて風の厲しきを知る。

紀曆の誌無しと⑨雖も。 ⑩シイジ自ら歳を成す。

怡然として余樂あり。 何においてか智慧を勞さん。

いかにも暢びやかな気分にかけております。やはり人間⑧憧憬の理想郷でありましょう。

問1 傍線部①～⑩のカタカナを漢字に、漢字をカタカナに改めなさい。（各1点）

問2 傍線部①「繽紛」の意味としてふさわしいものは、次のうちどれか。記号で答えなさい。（2点）

ア よい香りが漂うようす イ 花びらが散るようす

ウ 熟した実が落ちるようす エ 葉が照り輝くようす

問3 傍線部①「豁」について、『大漢和辞典』で調べる場合、(1)どの部首の、(2)何画のところを見れば良いかを答えなさい。（各2点）

問4 傍線部③「聞」には、二種類の音読みがある。そのそれぞれを使って読む熟語を一つずつ挙げなさい。（各2点）

問5 空欄Aに入ることばとしてふさわしいものは、次のうちどれか。記号で答えなさい。（2点）

ア 遊んで イ 仕事をして ウ 踊って エ 楽しんで

問6 傍線部④「殺」について、「ころす」以外の訓読みとしてふさわしくないものは、次のうちどれか。記号で答えなさい。（2点）

ア そぐ イ あやめる ウ そこなう エ うばう

問7 傍線部㊦「秦の時代の乱」の中から生まれた故事成語としてふさわしいものは、次のうちどれか。記号で答えなさい。  
(2点)

- ア 出でては将、入りては相      イ 王侯将相、寧<sup>いず</sup>くんぞ種有らんや  
ウ 強将の下に弱卒なし      エ 一将功成りて万骨枯る

問8 空欄Bに入る中国の王朝名として適切なものは、次のうちどれか。記号で答えなさい。(2点)

- ア 魏      イ 隋      ウ 漢      エ 唐

問9 次の熟語のうち、傍線部㊦「辞し」と最も近い意味で「辞」が使われているのは、次のうちどれか。記号で答えなさい。  
(2点)

- ア 辞書      イ 辞令      ウ 辞職      エ 辞去

問10 次は傍線部㊦「陶淵明」の「飲酒」詩の一節である。空欄に入る漢字一字を書きなさい。(2点)

菊を采る東籬の下、( ) 然として南山を見る。

問11 空欄Cに入る、中国古典の書名を答えなさい。(3点)

問12 傍線部㊦「憧憬」は、二種類の読み方がされている熟語として知られている。その(1)辞書などで本来のものとされている読み方と、(2)慣用読みとをそれぞれひらがなで答えなさい。(完答5点)

## 【問題Ⅱ】

漢語の意味に注意して、あとの問いに答えなさい。

問1 漢文に用いられている語とその意味の組み合わせとして、正しくないものを次のア～キから二つ選び、記号で答えなさい。

い。(各2点)

ア 学者〈意味〉学ぶ人。

イ 故人〈意味〉亡くなった人。

ウ 左右〈意味〉君主のそばにいて仕える人

エ 小人〈意味〉人格が低く、つまらぬ人。

オ 丈夫〈意味〉りっぱな男性。

カ 大人〈意味〉成長した人。

キ 百姓〈意味〉多くの民。

問2 傍線部を正しい漢字に改めなさい。(各2点)

①無罪判決が出て、晴天白日の身となった。

②言語同断の振る舞いだと言わざるを得ない。

③私には私の人生感がある。

④多くの聴衆から鳴咽が漏れた。

⑤江戸時代の大名を諸侯ということがある。

問3 次の詩と文章には、いずれも「多少」の語が用いられている。このうち(1)「多くの」および(2)「多いことと少ないこと」の意味で「多少」を用いているものをそれぞれ一つずつ選び、A～Dの記号で答えなさい。(各3点)

A 江南春 杜牧

千里鶯啼緑映紅  
水村山郭酒旗風  
南朝四百八十寺  
多少樓台烟雨中

千里鶯啼きて 緑紅に映ず  
水村山郭 酒旗の風  
南朝四百八十寺  
多少の樓台 烟雨の中

B 春曉 孟浩然

春眠不覺曉  
処処聞啼鳥  
夜來風雨聲  
花落知多少

春眠 曉を覺えず  
処処 啼鳥を聞く  
夜來 風雨の聲  
花落つること 知る多少

C

錢ぜにを持ったことのない人の錢を持った喜びは、錢の多少には関せない。人の欲には限りがないから、錢を持ってみると、いくらあればよいという限界は見いだされないのである。(森鷗外「高瀬舟縁起」)

D

細君は津田を前に置いてお延の様子を形容する言葉を思案するらしかった。津田は多少の好奇心をもって、それを待ち受けた。(夏目漱石「明暗」十一)

【問題Ⅲ】

国字（日本で作られた漢字）・国訓（日本で作られた字義）について、あとの問いに答えなさい。

問1 次の傍線部の国字を含む語について、読みをひらがなで答えなさい。（各1点）

① システムを稼働させる。

② 莫莖を敷いて座った。

問2 次のことばを国字一文字で書きなさい。（各1点）

① はたけ

② とうげ

問3 秋田県など日本海側の地域では、ある魚について、何らかの気象現象が起こる頃に獲れるようになるといわれている。

そういう特質から作られた国字がある。その一つは「鱒」であり、傍の部分に「神」と略す異体字もある。

(1) その気象現象を傍に用いたもう一つの国字を楷書体で書きなさい。（2点）

(2) その読みをひらがなで答えなさい。（2点）

問4 次の漢字のうち、国字を一字選び、その字について次の問いに答えなさい。

「嬉 粒 袴 躰 鐘」

(1) 辞書などにある一般的な読みをひらがなで答えなさい。（2点）

(2) その字を用いる二字熟語（訓読みを用いてよい）を一つ答えなさい。（2点）

問5 次のうち、国訓を一つ選び、その字の中国での字義を一つ、ひらがなで答えなさい。（3点）

「送 かゝわる 混 こゝむ 轆 ひく 翻 ひるがえる 咽 むせぶ」

【問題Ⅳ】

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

漢字の作り方と使い方に関する原則として①「六書」といわれるものがあって、象形・(A)・会意・(B)・転注・仮借で構成されています。「六書」は(C)末期から後漢はじめにかけて成立したと考えられ、(D)が著した中国最古の字書②『説文解字』に集大成されていると考えられます。『説文解字』は九千種類あまりの漢字を(E)によって整理し、それぞれの漢字に「六書」を適用して本来の意味をあきらかにしています。

問1 次の文章の空欄A～Eに入る語として次のア～コから適切なものを選び、記号で答えなさい。(各1点)

- ア 六朝      イ 形勢      ウ 前漢      エ 許慎      オ 師事  
カ 韻目      キ 李斯      ク 指事      ケ 形声      コ 部首

問2 傍線部①②の日本語での読みを、ひらがなで答えなさい。(各2点)

問3 「門」は象形文字であると考えて、『大漢和辞典』の記述を参考にその成り立ちを三〇字前後で述べなさい。(6点)

門  
41211

サン      (字彙補)數還切  
セン      尸Xマ      shuan<sup>1</sup>  
刪

くわんぬぎ。門の横關。(字彙補)門、門横關也。(桂海虞衡志、雜志)門、門横關也。

【問題Ⅴ】

諸橋轍次の生涯や業績について、次の問いに答えなさい。

問1 次の写真は、記念館に展示されている、諸橋轍次がある章を受けたときの写真である。その章の名前を漢字で書きなさい。(3点)



問2 「行不由径」は、諸橋轍次が座右の銘としていたことばである。

(1) このことばの読み方としてふさわしいものは、次のうちどれか。記号で答えなさい。(2点)

- ア ゆくにこみちにそれず
- イ ゆくにこみちをわたらず
- ウ ゆくにこみちによらず
- エ ゆくにこみちにとどかず

(2) このことばの出典は、次のうちどれか。記号で答えなさい。(2点)

- ア 論語
- イ 朱子語類
- ウ 莊子
- エ 中庸

問3 『大漢和辞典』を出版している会社の名前を、漢字五字で書きなさい。(3点)